

第3回環境講座

映画上映会「アマゾンの大冒険」

～貴重な熱帯雨林のジャングルを探検しよう～

令和3年12月5日(日)流山市文化会館において、第3回市民環境講座「アマゾンの大冒険」上映会が開催された。事前申込みされた69組の親子が観賞した。

<映画のあらすじ>

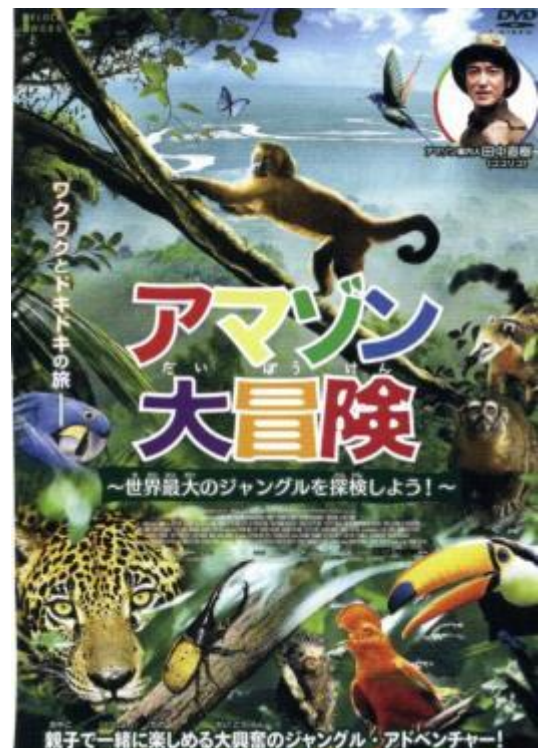
少女に飼われていた一匹のフサオマキザル“サイ”は、ある日アマゾンのジャングルに迷い込んでしまう。都会育ちの“サイ”が出会ったさまざまな生き物たち、豊かな植物。そして大自然の恐怖の体験。そんな中、一人ぼっちで心細かった“サイ”にお友達ができた。

<アマゾンについて>

アマゾン川流域は世界最大の熱帯雨林であり、生物多様性の森である。この貴重な森は脱炭素社会にはなくてはならないCO₂吸収の森である。

その熱帯雨林が危機をむかえている。今、アマゾン川流域では森林伐採が行われ、その土地は大豆畑や放牧地、飼料作物の畑などに転換されている。

また森林破壊によって引き起こされたと思われる木々の枯死が多発しているという。



(C) 2013 BILOBA Films - GULLANE - GEDEON Programmes -

France 2 Cinema - GLOBO Films

- IMOVISION - LE PACTE



ロビーでは地球温暖化のメカニズムについて、展示説明がおこなわれ

第170回「省エネ学習会」
企業や個人の温暖化防止策を考える
加藤啓子(OBN 会員)

令和3年9月3日の省エネ学習会は「企業や個人の温暖化防止策を考える」として、加藤啓子氏（OBN 会員）の発表であった。

今、地球は気温上昇や気候変動に悲鳴を上げている。この地球危機にどう立ち向かっていくのか、私たちは何をしなければならないかを考えていきたい。

二酸化炭素の排出量の8割は企業である。よって企業の地球温暖化対策が重要である。日本の企業の地球温暖化対策がどの程度きちんとできているのかを調査した。

環境保全団体「WWF JAPAN」の温暖化防止評価で、電機業界ではソニーが82.2点で1位。ソニーは環境負荷を目指して4つの視点で取り組んでいるという。気候変動、生物の多様性、資源、化学部室の4つを視点に行動するとしている。その他業界ごとのランキングがあり、プラスチックを使わないパッケージ、持続可能な素材を採用など、各企業の努力が発表された。



<個人の二酸化炭素を考える>

1. 再エネ電気への切り替え
2. 省エネ性能の高いエアコン・冷蔵庫・LED 照明等の利用、買換え
3. スマートムーブ（公共交通機関等で移動）
4. 食品ロス削減（食べ切れる量を買う）
5. 家庭ごみの減量（ごみの分別処理など）
6. ESG 投資（ゼロカーボン宣言・RE100 宣言など地球温暖化への対策に取り組む企業の応援）
7. クールビズ・ウォームビズ（気候に合わせた服装と、適切な室温・給湯器温度設定）

第171回「省エネ学習会」
惑星気象入門
気象予報士 吉永泰祐(OBN 会員)

令和3年10月1日の省エネ学習会は「惑星気象入門」として吉永泰祐氏（OBN 会員）の発表があった。

地球温暖化を含む地球の大気現象を深く理解するには、太陽系の惑星の大気環境を学習することが役立つ。この学習会では金星、火星、木星の大気を取り上げた。



水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星

金星は地球とほぼ同じ大きさの惑星だが、大気の大部分がCO₂で強力な温室効果の為、表面温度は約460度である。濃硫酸の雨が降り、厚い雲の為、地表には太陽光はわずかしか届かない。過去に海が存在しそのため温室効果が暴走したと言われている。

火星には過去に海があり地球と同程度の大気も存在し温暖であった。そのころにはバクテリア程度の生物が存在していた可能性がある。火星は小さいため徐々に星の内部の温度が下がり、地磁気の消失、火山の活動停止、さらには隕石の衝突などにより大気や海洋が消失し現在のような寒冷で乾燥した星になってしまった。

木星は水素の大気にアンモニアとメタンの雪が降り、地球とは大きく異なる。

過去に金星で起こったような温室効果の暴走が地球でも起こりうる。海洋が存在すると惑星大気の最上層部から宇宙に放出される熱量には限界があり、その限界以上に太陽から熱がやってくると、海が蒸発して無くなるまで大気の温度は上昇し続ける。太陽は徐々に放出する熱を増やしており、10億年後には、この暴走温室状態が起こると考えられている。

第 172 回省エネ学習会
私たち一人一人にできる
COOL CHOICE(賢い選択) & LED 照明
笠原久恵(OBN 会員)

令和 3 年 11 月 5 日の省エネ学習会は「私たち一人一人にできる COOL CHOICE (賢い選択) & LED 照明」として、笠原久恵氏 (OBN 会員) の発表であった

COOL CHOICE (賢い選択) とは、地球温暖化対策として、CO₂ などの温室効果ガスの排出量削減など脱炭素社会づくりを目指そうという運動である。



COOL CHOICE は、日本が提唱する地球温暖化対策の国民運動で、流山市としての COOL CHOICE 宣言は平成 28 年 2 月 4 日「市民環境講座」で井崎市長から宣言された。

COOL CHOICE カーボンニュートラルの実現に向

けて、未来のために、今実行しよう！

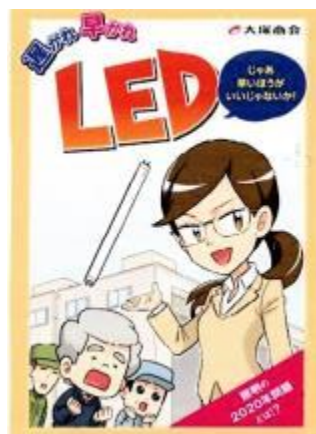
- ・ エネルギーを節約し再エネに転換しよう
- ・ 太陽パネル付き、省エネ住宅に住もう
- ・ CO₂ の少ない交通手段を選ぼう
- ・ 食品ロスをなくそう
- ・ 環境保全活動に積極的に参加しよう
- ・ CO₂ の少ない製品やサービスなどを選ぼう
- ・ 3R (リデュース、リユース、リサイクル)
- ・ サステナブルなファッションを

LED 照明

LED 照明とは光る半導体の略称で、寿命が長い、消費電力が少ないなどの特徴がある。

国内の蛍光灯メーカーが LED 照明の急速な普及により 2019 年より蛍光灯の製造を中止している。

早めに LED 照明へのお取替えをお勧めします。



大塚商会 HP から

第 173 回省エネ学習会
人口問題と金融リテラシー
～老後に向けての経済的自立～
高花富夫(OBN 会員)

令和 3 年 12 月 3 日の省エネ学習会は「人口問題と金融リテラシー～老後に向けての経済的自立～」として、高花富夫氏 (OBN 会員) の発表であった

世界人口は、現在の 78 億人から 2050 年には 97 億人に増加が予想されている。(国連)

★地球の生命維持の限度を超えた人口増は、

- ① 食料や水の不足
- ② エネルギーや資源の不足
- ③ 地球温暖化などの自然環境問題
- ④ 貧困の急増などをもたらしている。

問題解決策の一つとして、2030 までに持続可能な社会を目指す SDG s の働きが注目されている。

★一方日本は、少子高齢化の社会になって久しい

- ① 社会保障制度の老朽化は、社会保障費 (年金、健保、介護) の増大による財政悪化が浮上。
- ② 30 年に及ぶ経済停滞により、所得の伸びがとまり、将来に対する不安が高まる。

★人生 100 年時代到来⇒平均余命による老後資金は 2,000 万円の準備が必要との見解が発表。

- ① 経済自立に向けて金融リテラシーの普及活動
 来年から中学、高校で資産形成教育開始
- ② お金の育て方 (資産形成) 基本は貯蓄と投資。
 預貯金では、お金は働いてくれない (マイナス金利の時代)、しかし、国民は貯蓄に偏りすぎている。政府は 2014 年に N I S A 制度を導入して個人の資産形成を応援。
- ③ 金融商品でお金に働いてもらう⇒預貯金と違い元本保証でないのでリスクを自分で負担する。
 ⇒リスク (ブレ幅) を低減して確実なリターンを得る⇒「一つの籠に卵を盛るな」⇒資産・地域の分散、時間の分散、(積立投資) の実践、それに加えて長期保有、⇒長期保有は 10 年以上 (複利効果) ⇒コストは低いものを選択する。
- ④ 国際分散、長期積立投資を行うには、コストの低いインデックス型の投資信託が最適商品となる。目標は年率 6~7% のリターン。
 これが、金融リテラシーのポイントです。

脱炭素チャレンジカップ2022

「奨励賞」を受賞しました

温暖化防止なぐれやまは、「脱炭素チャレンジカップ2022」で、優秀な取り組みを実施している団体であることが認められ「奨励賞」を受賞した。

「脱炭素チャレンジカップ」はSDGsを支援し、世界で気候変動問題が年々深刻化する中、「パリ協定」に基づき、世界の平均気温の上昇を産業革命前の2℃未満に抑え脱炭素社会を構築することを目指し、多種多様な団体（学校、企業、自治体、NPO等）が日々取り組んでいる地球温暖化防止につながる活動を発信している。

「脱炭素化」とはCO₂の排出量をゼロにすることをいう。社会の脱炭素化のためには、エネルギー、交通、農業、都市と言った社会の仕組みを考えていかなければならない。

2021年、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第6次報告書で「人間の影響が大気、海洋、陸域を温暖化させてきたことは、疑う余地がない」と発表されている。

国連気候変動枠組み条約締約国会議

COP26 閉幕「気温上昇1.5℃に合意」

国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)は、2021年10月31日から、英国スコットランドのグラスゴーで行われ、上昇する地球の温度、激しさを増す自然災害、南極などの氷が解けることによる海面上昇、熱波による森林火災など、地球と地球上に住む様々な生き物の生存が危なくなっている状態を前に、国際社会がどのような対策をとるのか話し合うための会議である。

COP26では、産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑える努力を追求すること、石炭火力発電を段階的に削減することの2点が合意された。

日本は、昨年、2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにすると表明、法律にも明記された。2030年度には46%削減を目標に掲げ、達成に向けたエネルギー基本計画も策定した。しかし、2030年時点でも、石炭火力発電に19%も頼る計画だという。

COP26では地球の危機に対処するための目標が決まったが、実現には私たち国民が脱炭素社会をめざしていかなければならない。再生エネルギーの拡大、自動車の電動化、家庭でも徹底した省エネが必要となる。私たち国民に課せられた課題は山積みである。

【行事案内】

- 1, 新春ビッグ対談「脱炭素社会に向けて」
自民党衆議院議員 齋藤 健 氏
NPO元気ネット理事長 鬼沢 良子 氏

<http://www.na-shimin.org/w2/obn/conference/R3/No174R4.1.7.pdf>

- 2, 第4回環境講座
「らんま先生のエコパフォーマンスショー」

<https://www.kokuchpro.com/event/993f7a5f52d6c4eb1d6119190bca4a>

会員募集

私たちと一緒に、
大切な地球のこと考えませんか！

- ・連絡先：事務局長 春田育男
- ・Mail：iharuta@gmail.com
- ・Fax：04-7154-6309

令和3年12月2日

温暖化防止なぐれやま 御中

脱炭素チャレンジカップ実行委員会
委員長 小宮山 浩

「脱炭素チャレンジカップ2022」選考結果について（通知）

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

この度は、脱炭素チャレンジカップ2022のエントリー募集にご応募頂き、誠にありがとうございました。

厳正なる審査の結果、貴団体は惜しくも脱炭素チャレンジカップ2022出場権獲得には至りませんでしたが、これまでの貴団体の取り組みと功績に対し敬意を表し「脱炭素チャレンジカップ2022奨励賞」を授与させていただきますこととなりました。

「脱炭素チャレンジカップ2022奨励賞」は、優秀な取り組みを実施している団体であることを認め今後の活躍に期待し表彰するものです。

今後も、脱炭素チャレンジカップへの積極的なご応募をお待ちしております。

貴団体の取り組みのご発展と、今後ますますのご活躍を心より祈念いたしております。

敬具

*****お問い合わせ先*****
一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
脱炭素チャレンジカップ事務局
担当：高橋



zoo@zenkoku-net.org TEL:03-6273-7785